

知立市議会議長 様

報 告 者	田中 健（篤心会）
日 時	令和5年10月12日(木)～13日(金)
視察（研修）場所	青森県八戸市公会堂
目 的	第85回全国都市問題会議
<p>【概 要】テーマ：文化芸術・スポーツが生み出す都市の魅力と発展</p> <p>文化芸術とスポーツは、古来より、人々の生活と密接不可分な関わりを有してきた。文化芸術は人間の持つ高度な精神活動の産物であり、人々の豊かな人間性を涵養し、創造力と感性を育むとともに、個人としての、またさまざまなコミュニティの一員としてのアイデンティティを形成する精神的な支柱となるものである。また、スポーツは、身体活動を通じて人々の心身両面にわたる健康を促進し、さらに克己心やフェアプレーの精神を培うとともに、人間の可能性の極限を追求する試みでもある。</p> <p>都市とは、多数の人々が行き交う人口と文化の集積地として、こうした文化芸術やスポーツの営みが花開く拠点となる空間である。そして今日では、文化芸術・スポーツは、個人の生活にはりと潤いをもたらす人生を豊かなものにするだけにとどまらず、都市の魅力の向上や持続的な発展にとっても欠かすことのできない要素であると考えられるようになってきている。議論をやや先取りして言えば、文化芸術・スポーツは、人口減少、地域コミュニティの衰退、経済格差の増大など、数多くの課題に直面している現代の都市にとって、それらの諸課題を克服していくための有力な処方箋になりうるとともに、各都市に固有の唯一無二のアイデンティティを形作り、都市の魅力創出やまちづくりの基盤となる可能性を秘めているのである。</p> <p>加えて、この間の新型コロナウイルス感染症の世界的なパンデミックが文化芸術・スポーツに深刻な打撃を与えたことも周知のとおりである。活動それ自体が時には「不要不急のもの」として厳しく制限され、文化芸術・スポーツを通じて人々が“つながりあう”ことが困難な時期が長く続いた。こうした苦境の中で、一方ではオンラインを活用することなどによる新たな活動のあり方が懸命に模索されてきたが、それと同時に、目の前で繰り広げられるリアルな体験の重要性が強く再認識されることとなった。</p> <p>アフターコロナ/ポストコロナの社会を構築する動きが本格化しているいま・この時期だからこそ、今回、都市自治体と文化芸術・スポーツの関係をとりあげて議論することの意義は一際大きいと言える。本会議では、文化芸術・スポーツの持つ今日的な意義と可能性について検討を加え、そこで都市自治体がどのような役割を担うべきかを考察する。</p> <p>≪1日目≫</p> <p>1. 主催者挨拶：全国市長会会長 立谷相馬市長 開催都市 熊谷八戸市長</p>	

## 2. 基調講演：日比野克彦 東京藝術大学学長

### 「アート役割って何だろう」

アートの機能と可能性について、3つの視点で考察する。

#### 1. アートは「生きる力」を象徴する

- ・ アートは想像力を通じて時間や空間に制約されず、私たちの生活を豊かにする力を持つ。
- ・ 特に未知の出来事や困難に直面した際、アートは希望と創造性を提供し、人々が前向きに行動する助けとなる。

#### 2. アートは多様性を尊重し、社会の基盤を築く

- ・ アートは個々の異なる視点と背景を受け入れ、多様な社会を支える基盤となる。
- ・ 他者との違いが個性を形作る重要性を強調し、アートを通じて人々が自己を発見し、多様性を尊重することを奨励する。

#### 3. アートは社会的課題に取り組むためのツール

- ・ アートは人々の心に作用し、社会的課題に取り組むために気持ちや意識を変える手段として機能する。
- ・ 社会的課題に対処するために、アートの力を活用することが重要であると述べられている。

アートが個人や社会に対してさまざまな重要な役割を果たすことを強調している。アートは単なる娯楽や表現手段にとどまらず、生活や社会に深い影響を与える要素であると論じている。

## 3. 主報告：八戸市 熊谷雄一市長

八戸市は、北東北に位置し、水産都市、工業都市、国際物流拠点都市として発展してきた。市には縄文遺跡や伝統文化、美しい自然景観、美味しい食べ物などの貴重な地域資源がある。

市では文化とスポーツを活用してまちづくりに取り組んでおり、多様な文化活動やアートプロジェクト、スケート文化の育成、スポーツチームの支援などが行われている。特に、文化施設の整備と文化への投資が都市機能再編につながり、新たな可能性を切り拓く試みとして注目されている。

また、アートとスポーツを通じて、市民の関わりや楽しみ、学びの場を提供し、まちづくりに貢献している。市はこれらの取り組みを通じて、地域資源の再評価やアートの力を活用し、まちづくりを進めている。

文化とスポーツは、人々に生きる喜びを提供し、感動、歓び、創造性、表現力、共感、健康、幸福、自律心など多くの精神的な価値をもたらす。文化芸術基本法とスポーツ基本法は、文化とスポーツを他の分野と連携させ、経済的価値をもたらすことを目指しており、以下の3つの重要な点に焦点を当てている。

1. 地域資源の活用とネットワークの構築：文化とスポーツは、公共の施設を中心に地域のネットワークを形成し、地域経済やコミュニケーションの新たな回路を作り出すのに役立つ。
2. 関心とテーマに基づくコミュニティの増加：地域の祭り、スポーツクラブ、文化活動のサークルなどが、人々の関心に合わせてコミュニティを形成し、地域づくりに貢献している。
3. 開かれたパブリックな場の重要性：都市の空間づくりは、市民参加型の

活動を促進し、異なる価値観や人々の交流を支援する役割を果たす。  
最終的に、文化とスポーツは、社会を豊かにし、コミュニティ感覚を育み、より良い社会を実現するための重要なツールであると強調している。

4. 一般報告(1)：文化事業ディレクター、演出家 志川由美  
「まちづくりの活力は地域に根ざした文化政策から生まれる」
  - ・ まちのリノベーションと「はっち」の誕生
  - ・ はっちのアート・プロジェクト
  - ・ 地域社会の分母としての文化をみんなで見出す
  - ・ 危機と文化
  - ・ 地域の活力と魅力の源泉は“地域の文化”
  
5. 一般報告(2)：東御市 花岡利夫市長  
「標高差 1,500mの地勢を活かしたスポーツ・ツーリズムの創出」
  - ・ 文化芸術・スポーツが生み出す都市の魅力と発展に向け
  - ・ 欠点を個性に
  - ・ 地域固有の価値を見出し最大限に活かす
  - ・ 合言葉は「東御から世界へ」
  
6. 一般報告(3)：株式会社鹿島アントラーズFC 鈴木秀樹取締役副社長  
「まちづくりにおけるプロスポーツクラブの有効活用」
  - ・ 全国に広がるプロスポーツクラブ
  - ・ 鹿島アントラーズと地域との深いつながり
  - ・ 鹿島アントラーズによる地域の社会課題解決
  - ・ プロスポーツクラブを有効に使い切る
  - ・

#### ≪2日目≫パネルディスカッション

【コーディネーター】東京大学大学院人文社会系研究科 小林真理教授

「一巡した文化芸術を活用したまちづくり～自治体文化行政から魅力的なまちへ」  
文化観光の推進に関連する法律と自治体文化行政の発展について述べている。

##### 1. 文化観光推進法について

- ・ 2020年に文化観光推進法が制定され、文化観光は地域の文化を活性化し、経済効果を循環的に再投資することを目的としている。この法律に基づく事業が行われ、多くの地方自治体が関与している。

##### 2. 自治体文化行政の発展と展開

- ・ 過去の自治体文化行政の特質について指摘し、現在の状況の考察。
- ・ 地域の文化を再評価し、地域の文化資源を活用して地域の課題解決や文化の普及を図るアプローチが重要である。
- ・ また、公民協働が重要で、民間事業者の協力も必要であると指摘する。

2020年に制定された文化観光推進法により、地域の文化を活性化し、経済に貢献するためのプロジェクトが多くの自治体で行われている。自治体文化行政は過去から進化し、特に地域の文化を再評価し、新たな課題解決に取り組む視点が重要であると強調している。公民協働や民間事業者の協力も増えつつあり、これらのアプローチは地域社会における文化の発展に貢献している。

## 【パネリスト】

### ■ 合同会 imajimu 代表取締役 今川和佳子氏

「八戸の独自性が生み出してきたもの」

1. 複合的な機能を持つ「はっち」の誕生
2. 市民のマンパワーが人をつなぐ
3. 郷土芸能とアートの親和性

### ■ 拓殖大学商学部教授 松橋崇史氏

「地域活性化によるスポーツの役割とその変化」

1. 地域活性化とスポーツの関連性
2. 地域活性化とトップスポーツクラブ
3. 地域活性化とスポーツクラブ
4. 「全力」を可視化するスポーツ
5. 多様性を体現するスポーツ

### ■ 静岡県沼津市長 頼重秀一氏

「スポーツとアニメを活用したにぎわいの創出～誇り高い沼津を目指して～」

1. 市制施行 100 周年
2. スポーツを活かしたまちづくり
  - ① フェンシングのまち沼津
  - ② アスルクラロ沼津
  - ③ サイクリストフレンドリーエリア沼津
  - ④ プロスポーツか楽しめるまち沼津
3. アニメ「ラブライブ！サンシャイン！！」を活かしたまちづくり
  - ① 経緯
  - ② 聖地巡礼
  - ③ 民間の取り組み
  - ④ 行政の取り組み
4. 新たなビジネスチャンスの創造

### ■ 京都府綾部市長 山崎善也氏

「文化芸術・スポーツで紡ぐまち・綾部～市民一人1文化・1スポーツの推進～」

1. 一人ひとりの幸せをみんなで紡いで実現できるまち
2. 市民一人1文化・1スポーツの推進
3. 受け継がれる文化芸術の礎
4. 合唱のまち・綾部
5. 文化がかおるまち綾部
6. 豊かな自然を活かしたスポーツによるまちづくり
7. 「近き者悦ばば遠き者来る」

## 【所 感】

文化芸術とスポーツが都市の魅力と発展にどのように貢献するかについて多様なケースを学ぶ機会であった。

文化芸術とスポーツは都市と深く結びついており、個人とコミュニティのアイデンティティ形成や都市の魅力向上に寄与する。特に、現代の都市は人口減少や経済

格差などの課題に直面しており、文化芸術とスポーツはこれらの課題に対処する手段として重要。

新型コロナウイルスのパンデミックも文化芸術とスポーツに影響を与えたが、オンライン活動の重要性とリアルな体験の重要性の両方が再評価されている。またアフターコロナの社会を構築する時期に、都市自治体と文化芸術・スポーツの関係を検討する意義が高まっている。

文化芸術とスポーツは、個人の生活だけでなく、社会課題の解決や経済活性化にも寄与する価値がある。しかし、基本的な前提として、全ての市民が文化芸術とスポーツを享受できる場と機会を保障する必要がある。

文化芸術とスポーツは経済的な価値だけでなく、教育、福祉、医療、地域コミュニティの再生、社会包摂、市民のアイデンティティ形成にも貢献している。このような多様な役割を通じて、都市の魅力向上と持続的な発展に寄与する。

都市自治体が文化芸術・スポーツを活用して都市の魅力と発展を促進するために考慮すべき3つの重要な視点がある。

1. 理念・ビジョンの確立：都市自治体は、文化芸術・スポーツ政策を通じてどのような公益を追求し、どのような都市をつくりたいかの明確な目的と目標を設定する必要がある。また、文化芸術・スポーツの多様な価値と機能に目を向けることが大切で、文化芸術・スポーツが地域社会の発展にどのように寄与できるかを理解する必要がある。
2. 粘り強い継続的な取り組み：文化芸術・スポーツ政策は中長期的な視点で捉えるべきであり、文化芸術・スポーツ資源の発掘や育成、地域への活用に対する戦略的アプローチが必要。この取り組みを継続的に行うことが重要で、地域のアイデンティティ形成に貢献する。
3. 市民の主体性の発揮：文化芸術・スポーツのまちづくりにおいて、市民は主役であるべきであり、行政や民間組織の支援を受けながら文化芸術・スポーツに関与する機会を持つことが必要。市民の理解と共感を得るために、市民参加の条件整備が欠かせない。

これらの要点を念頭に置いて、文化芸術・スポーツを通じて、都市の魅力と発展を実現するためのアプローチを検討することが肝要。

昨年都市問題会議でテーマであった、「個性を活かして「選ばれる」まちづくり～何度も訪れたい場所になるために～」でも同様の所感であったが、「選ばれる」というキーワードは、地方創生の文脈でよく用いられる。

そのためには他の自治体との差別化がとても重要になり、「差別化」というと、観光、文化、スポーツ、子育てのように、分野の方向性の判断に目が行きがちだが、事業者との連携のあり方や市民力の活かし方など、化学反応を起こすための現場での創意工夫が結果として大きな違いを生むように思う。加えて、行政の論理だけで考えないことの重要性も再認識できた。

※報告書は視察（研修）場所ごとに作成してください。

報告書は視察（研修）終了後1週間以内に提出してください。